みんなで進めよう
茨城農業改革

# 普及だより

平成２３年８月１０日　№３１
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎３階
土浦市真鍋５－１７－２６
電話　０２９－８２２－８５１７
FAX　０２９－８２２－７３７０
URL:http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## コギク産地に電灯がともる

左：出荷作型毎に全員で見回りします　　右上：常陸オータムレモン（県オリジナル品種）の花色・花形
右下：需要期出荷のための電照栽培

石岡市やかすみがうら市にコギクが導入され四〇年あまりになります。平成八年に石岡市では花き銘柄産地の指定を受け現在に至っています。

コギクの需要期は七月の東京盆、八月お盆、九月お彼岸となっています。この需要期にあわせて供給できることが産地の信頼となっており、その信頼を支える技術が電照栽培です。産地では主に八月と九月の需要期にピッタリ出荷できるよう、電照で花芽分化を抑制し開花期を調節しています。五月から七月にかけての夜中、コギクほ場では電灯がともります。

石岡市では茨城県育成オリジナル品種の現地試験を行って、ブランド確立に向け取り組んでいます。一方、かすみがうら市でも新品種現地試験を行うなど、切磋琢磨しあった高品質なコギク生産に励んでいます。

いずれの産地も歴史があり、栽培技術レベルが高い産地です。今後は、その栽培技術を伝承していく仕組みづくりと連作対策、新規栽培者の確保が課題となります。

両コギク産地とも、意欲的な新規生産者を募集しています。コギク経営に興味のある方は、普及センターまでお気軽にご相談下さい。





## どうぞよろしくお願いします

今年度、新たに以下の皆さんが農業三士として茨城県知事の認定を受けました。

### 農業経営士

**石岡市　真家　隆史 氏**
**花き＋果樹**
チューリップとカキの複合経営により経営の安定化を図っています。フラワーサクセスクラブでの後継者の育成や街づくり活動をリーダーとして進めています。

**かすみがうら市　飯田　勝 氏**
**畜産（酪農）**
良質な自給粗飼料を確保し経営の安定化を図っています。ひのでの酪農協の元青年部長、元改良部長として、酪農の発展に貢献しています。

### 女性農業士

**土浦市　小林　弘美 氏**
**果樹**
ナシとブドウを大玉・大粒、食味にこだわって生産し、直接販売をしています。ナシの女性生産者グループに参加し、将来のリーダーとして期待されています。

### 青年農業士

**土浦市　飯田　公巳 氏**
**露地野菜**
レンコンの専作経営のなかで作型や品種を組み合わせて経営の安定化に努めています。ＪＡ土浦青年部はばたく会員として、リーダーシップを発揮しています。

**土浦市　田中　英明 氏**
**露地野菜**
レンコンの専作経営で作型や品種の組み合わせ、直売所出荷などにより経営の安定化に努めています。ＪＡ土浦青年部はばたく会員として今後の活躍が期待されます。

**土浦市　吉田　藤樹 氏**
**普通作＋露地野菜**
水稲＋ネギの複合経営により年間労働時間の効率化を図っています。ＪＡ土浦青年部はばたく会員として信頼が厚く、協調性、積極性に優れた方です。

**石岡市　鈴木　拓也 氏**
**花き**
ユリとトルコギキョウの経営で、高品質種苗の確保、高品質生産技術の習得に努めています。ＹＡＣの副会長として会長を補佐し、積極的にクラブ活動で活動しています。

**かすみがうら市　外塚　憲一 氏**
**果樹**
ナシ、ブドウ、クリ、ウメ、水稲を組み合わせ経営の安定化を図っています。かすみがうら４Ｈクラブの元会長を務めるなど、リーダー的な存在です。

**かすみがうら市　水野谷　弘文 氏**
**果樹＋露地野菜**
ナシとレンコンの複合経営により経営の安定化を図っています。かすみがうら４Ｈクラブでは元会長を務め、若い会員の良きアドバイザーとして活躍しています。

## ありがとうございました

今年度、新たに以下の皆さんが退任されました。

**農業経営士**
石岡市　久家　政輝 氏
かすみがうら市　米山　繁 氏

**女性農業士**
土浦市　大関　美津恵 氏

**青年農業士**
土浦市　嶋村　弘道 氏
土浦市　滝　毅 氏
土浦市　萩原　隆史 氏
かすみがうら市　鈴木　俊之 氏

## 平成24年度茨城県立農業大学校学生募集

**専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。**

茨城県立農業大学校は、幅広い視野と豊かな人間性の形成を図るとともに、時代に即応できる経営感覚に優れた農業者及び農村社会の担い手、農村地域において指導的役割を果たし得るにふさわしい者の教育を目標としています。

■入学定員■

| 科名 | | 入学定員 | 主な対象 | 修業年限 | 専攻コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 学科 | 農学科 | 40名 | 高等学校等を卒業した者又は平成24年3月に卒業若しくは修了見込みの者 | 2年 | 普通作・露地野菜・果樹 |
| | 畜産学科 | 10 | | 2年 | |
| | 園芸学科 | 30 | | 2年 | 施設野菜・花き |
| 研究科 | | 10 | 農業大学校卒又は短期大学等卒以上若しくは卒業見込みの者 | 2年 | 作物・園芸・畜産 |

◎詳しくは入試事務局にお問い合わせください。
■問い合わせ先　〒311-3116　茨城県東茨城郡茨城町長岡4070-186
《入試事務局》　TEL　029-292-0010
■農大ホームページ　http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/

## 新規就農者の方へ

### 農業学園のご案内

普及センターでは、新しく農業を始めた方を対象に、農業学園を開催しています。今年も土づくりや病害虫などの基礎講座のほか、専門講座（レンコン講座）を開催しています。ご興味がある方は、普及センターまでお問い合わせください。

### いばらき営農塾の開催

いばらき営農塾（営農支援研修）の今後の開校予定は、坂東市の農大園芸部で、野菜園芸を中心に基礎知識と技術を学ぶＢコース（概ね四五歳までの方が対象）が一二月六日から三月一三日の火曜日と金曜日を中心に開講されます。申し込み締め切りは一一月四日です。希望される方は、普及センターまでご連絡ください。

## 営農トピックス

## 高品質コシヒカリ生産のための管理のポイント

**【適期収穫】**

早刈りでは、未熟粒や青米が多く、収量も減少します。刈り遅れは、収穫ロスが増えるばかりでなく、胴割米や着色米等により、品質が低下します。収量と品質を確保するため、適期に収穫しましょう。

コシヒカリの収穫適期の目安は、穂首近くの緑色を帯びた籾（帯緑籾）が一〇％程度のときから五日間、出穂後四〇～四五日の頃です。

収穫作業では稲の水分が高いと、こき残しによる損失が多くなるとともに詰まり等により作業効率が低下します。コンバインで収穫した籾は変質防止のため速やか（四時間以内）に乾燥しましょう。

**【適正な乾燥・調製】**

刈り取り後の籾を急激に乾燥すると胴割米が発生します。胴割米の発生を軽減するためには、籾水分が高い場合や、ばらつきが大きい場合は、「二段乾燥法」に取り組みましょう。一段目では、籾水分一八％程度で乾燥機を止め、一時（一日以上）貯留します。これにより、整粒と未熟粒の水分差が少なくなります。その後、二段目の再乾燥により、玄米水分を一五％に仕上げます。

籾すりは、放冷し、穀温を外気温程度まで下げてから行います。放冷が不足すると、肌ずれ米、胴割米、砕米が多くなります。

調製は、一・八五ｍｍ以上の篩目を用い、小さな粒を十分に選別できるよう適切な流量で行います。

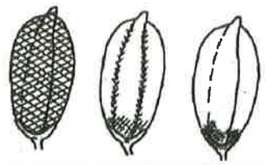
**【健全な土づくり】**

翌年の栽培に備え、収穫後は土づくりに努めましょう。

稲わらは、収穫直後の気温が高い時期にすき込みます。このとき、浅めに耕起することにより、分解の促進を図ります。

たい肥を利用する場合は、完熟したものを〇・五ｔ／一〇ａ程度を目安に、一一月中旬頃までに施用します。

▲帯緑籾判別基準（黒色カルトン上）



▲帯緑籾の模式図（斜線部は緑色を帯びている部位（帯緑部））

白化籾は刈り遅れです。胴割れ米発生の危険性が高い！

## レンコン茎葉のすき込みのエコファーマー技術への取組について

レンコン栽培でエコファーマーの認定を受けるための土づくり技術の「たい肥等有機質資材の施用」に、茎葉のすき込みが認められたため、レンコンでエコファーマーが取得しやすくなりました。

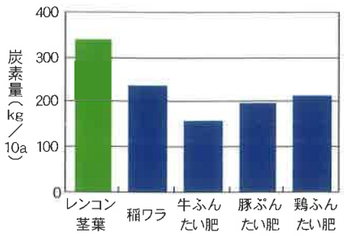
**【エコファーマーについて】**

エコファーマーとは「持続性の高い農業生産方式」の導入計画を作り、県知事の認定を受けた農家のことです。「持続性の高い農業生産方式」は①土づくり、②化学肥料低減、③化学農薬低減の三つの技術に一体的に取り組む生産方式です。土づくり技術としては、「たい肥等有機質資材の施用」が必要となりますが、レンコンでは土質や作業性の問題でたい肥の施用が減少傾向にあり、エコファーマーの認定を受けにくい状況でした。

**【茎葉のすき込みについて】**

昨年、普及センターでレンコンの収穫部を除く茎葉（葉身、葉柄、地下茎）についての調査を行いました。その結果、炭素量（炭素は土づくりに重要な要素）や窒素量などは、他の土づくり資材と比べても遜色がないことが明らかになりました。この結果から、レンコン茎葉のすき込みが、本年度から新たに「たい肥等有機質資材の施用」の技術として認められました。

エコファーマーは環境にやさしい農業を実践していることをアピールするために有効です。これを機に、エコファーマーの認証取得を是非考えてみて下さい。




▲レンコン茎葉の炭素量（たい肥は平均的濃度なもの 1000kg、稲わらは 600kg で算出）

## ナシ園管理の重点について

収穫が終わると、ほ場に入る機会が減り、管理も手薄になりがちですが、来年の果実生産が始まる大切な時期です。

今回は、礼肥・土づくりについて説明します。

**○礼肥**

礼肥は、果実生産で消耗した養分の補給をし、貯蔵養分の蓄積・秋根の発生を促します。秋根は秋冬期から早春に働くため、春の芽吹きも早くなります。

収穫直後に速効性の肥料を施用します。成木園一〇ａ当たりチッソ成分で五kgを目安に施用します。

**○土づくり**

土壌の化学性を改善するため、土壌診断を行い診断結果に基づいた土壌改良資材を施用します。

また、株元へのたい肥やワラなどの有機物マルチは、土壌の物理性を改善し、細根が発生しやすい環境をつくります。施用するたい肥は、完熟のものを使用してください。未熟たい肥は根を傷めるなど悪影響を及ぼすので注意が必要です。

## ☆米粉のあっさりシチュー☆

普及センターでは、今年度、農村女性大学で米粉講座を開催しています。今回は、ご家庭で簡単にできる米粉料理をご紹介します。

**＜材料（４人分）＞**

ケーキ用米粉… 40g
牛乳…… 500cc
鶏肉…… 150g
玉葱…… 中１個
じゃがいも…… ２個
人参…… １／２本
しめじ…… １袋
水…… 500cc
塩・こしょう… 適宜

**＜作り方＞**

①鶏肉・野菜を切る。
②鶏肉・野菜を炒め、水を入れてやわらかく煮る。
③ケーキ用米粉に牛乳を混ぜ、②に入れる。
④塩・こしょうで味をととのえる。

*《Point》*

ホワイトソースと比較して、あっさりとしたシチューになります。ちょっとコクを出したい場合はお好みで粉チーズやバター、生クリーム等を入れて下さい。

出典：菅原商店（宮城県加美町）
http://keiko-komeko.boo.jp/index.php

## まちからむらから

### 土浦市
### ふるさと農業体験塾で野菜づくり

土浦市では、地域にある資源を活用し、農作業体験活動を推進する都市と農村の交流事業に取り組み、今年度は新治地区の農園で安全・安心な野菜作りを体験する「ふるさと農業体験塾」を開催しています。

六月一二日（日）には、新治地区公民館において入塾式と夏野菜（とうもろこし）の種まきを行い、四五名の一般消費者が参加しました。

この体験塾は、野菜の種まきから収穫までを、新治地区の生産者の指導で基礎から学べるもので、今後も野菜収穫や手打ちそば体験や、そば懐石の調理実習など一一月上旬まで全五回の開催を予定しています。

### かすみがうら市

今年も暑くなりました。畜産農家の多いかすみがうら市です。今回は、畜舎の屋根の色と温度について紹介します。

トタン屋根の色により裏面温度を調べた結果があります。白ペイントを一〇〇とすると、雨の日はあまり変わりませんが、晴れの日は、黒色や濃ネズミ色では一四〇にも達します。

これは、白色ペイントの屋根では、太陽の熱の八五％を反射するのに対し、黒色ペイントの屋根では、五％しか反射しないからです。屋根の中に入ってくる熱量は、黒色ペイントのトタン屋根では、白色ペイントのトタン屋根の実に七倍にも達します。

屋根を白くするだけで、二～五℃程度畜舎内の温度が下がります。ぜひお試しを。

### 石岡市
### 特産品作りにチャレンジ

石岡市では、地元産の小麦や米粉用米を利用した特産品づくりに取り組んでいます。六月一八日にＪＡひたち野直売所「石岡そだち」で、地元産の材料を利用したパンやロールケーキを試作・販売しました。

米粉を利用したもちもち感のあるロールケーキと香り豊かな小麦のパンは、とても好評でした。今回の消費者の意見を参考に、より良い商品の開発を目指しています。

# 普及だより

平成24年1月4日　No.32
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦市真鍋5－17－26
土浦合同庁舎第二分庁舎３階
電話　029－822－8517
FAX　029－822－7370
URL：http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## ブランド化を考える

### ～新たな買ってもらえるものづくり研修会～

儲かる農業の実現による経営安定と地域農業の発展を目指し、一一月二四日、霞ヶ浦環境科学センターにおいて、「平成二三年度新たな買ってもらえるものづくり研修会」を開催しました。

本年度は、（株）ライブリーの山下郁子代表から「農業経営者の上手なコミュニケーションについて」と題し、「相手を大切に思う気持ちを持って、お客さまに感動を与えられるように接することが大切である」。との講演がありました。

コミュニケーションに関する研修

続いて、「ブランド化への取り組み」をテーマに、それぞれの地域における新たな取り組みとして、土浦の井沢夏樹さんが「エダマメの販路拡大の取り組み」、かすみがうら市の西崎敏和さんが「自分自身が商品である」、石岡市の友部敏英さんが「梨産地活性化で儲かる梨経営」の事例発表を行いました。

参加者へのアンケートでは、「地域での取り組みがたいへん良かった。今後も地域での新たな取り組み発表を期待します」との感想があり、ブランド化の必要性が十分に認識できた研修会となりました。

## 土浦地域青年農業士会が茨城復興イベントに出店

土浦地域青年農業士会が一一月五日に東京都中央区銀座のスワンカフェ銀座で開催された「茨城復興再生スワン市」に出店しました。

当日は会員が出品した米、野菜、果樹、花、加工品等が並びました。参加した会員も、試食やチラシ等を準備し、出品した商品や茨城県のことを消費者に盛んにＰＲしました。消費者からは被災地である茨城を応援する声が数多く聞かれました。

会員には地域農業の将来を担う若手農業者として、今後もますますの活躍が期待されます。

## 学校給食に地場産野菜メニューを提案

土浦地域農村女性ネットワークでは、地場産野菜の消費拡大を目指した活動を行っています。一一月一六日に、栄養士の方々を交えた交流会を催しました。交流会では、阿見町の学校給食における学校と農業者の連携について講演いただいたほか、会員が考えた学校給食用メニューの提案を行いました。今回提案したメニューが給食に登場する日が楽しみです。

# 新規就農者の定着に向けて

普及センターでは、農業を始めて間もない方を対象として、農業学園を開催しています。農業学園では、農業経営の基礎知識の習得を目的とした基礎講座と、地域の主要品目の専門知識を習得するためのレンコン講座の二つの講座を開催しています。講座は、講義、現地研修、先進技術視察等で構成され、巡回指導による個別の支援も行っています。

特に本年度は、稲敷地域とつくば地域の農業学園生との合同研修も実施しています。毎回二〇名前後の参加者が集まり、学習の場としてはもとより、同世代の新規就農者の仲間づくりの場にもなっています。

また、普及センターでは、これから農業を始めたいと考えている方からの相談を受け付けています。毎週第三木曜日の午後一時三〇分から就農相談会を開催しています。相談をご希望される方は普及センターのホームページ（表面参照）をご覧になり、事前にご連絡の上、ご相談ください。

上：レンコン先進農家研修
下：農業大学校での機械整備研修

## 停電時の園芸ハウス保温対策

厳寒期を迎える季節になりました。長時間の停電でも慌てずに済むよう対策を立てておきましょう。

園芸用のストーブやろうそくの用意は、絶対条件です。

ハウスの天窓は手動でも開閉できるよう、チェーンと長はしご、懐中電灯も常備しておきましょう。

カーテンの自動開閉装置では、充電式インパクトレンチ（一九ボルト以上のパワフルタイプ）があると、効率的に開閉ができます。自動カーテン機の回転軸のモーターの近くに手回しレンチがあるので、そこに設置します。また、開閉のたびに充電が必要なので、一〇〇ボルトの家庭用発電機も合わせて装備しておきましょう。

右：充電式インパクトレンチ
左：ハウスの手回しレンチ（右図のレンチを設置して開閉する）

## ☆米粉のあったかすいとん☆

普及センターでは、今年度、農村女性大学で米粉講座を開催しています。ご家庭で簡単にできる米粉料理をご紹介します。

**＜材料（４人分）＞**

| | | | |
|---|---|---|---|
| 大根…… | 200g | 水…… | ５カップ |
| じゃがいも… | 200g | サラダ油… | 大さじ１ |
| にんじん…… | 100g | みそ… | 大さじ４～５ |
| ごぼう…… | 40g | 米粉…… | １カップ |
| 豚もも肉…… | 100g | 水…… | 100cc |
| 長ねぎ…… | １本 | | |

**＜作り方＞**

①大根、じゃがいも、にんじん、豚もも肉はたんざく切り。ごぼうはささがきにする。
②鍋にサラダ油を入れ、豚もも肉を炒める。次に①の野菜を入れて、さっと炒め、水を入れて火が通るまで煮る。
③米粉は水を入れ、耳たぶくらいの固さにする。
④野菜が煮えたら、③を団子にして入れる。
⑤味噌を溶き入れ、最後に斜め切りにした長ねぎを入れる。

みんなで進めよう
茨城農業改革

# 土浦普及センターだより

平成２４年９月３日　No.３３
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎３階
土浦市真鍋５－１７－２６
電話　０２９－８２２－８５１７
FAX　０２９－８２２－７３７０
URL:http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## 「農業学園」は新規就農者の学びと仲間づくりの場

▲有機農業講座でのほ場見学

▲座談会にて青年農業士のアドバイス

当普及センターでは、毎年新規就農者を対象とした農業学園を、年間十数回開催しています。

農業の基礎知識講座から、地域の主要品目であるレンコン、有機農業の講座など、幅広く学べる機会を設けています。これらは、講義、現地研修、先進技術視察等を組み合わせて実施しています。

特に、レンコン講座は盛況で、本年度のレンコン現地研修会は三五名が参加しました。普段なかなか話す機会のない学園生同士の交流の場にもなっています。

昨年から、幅広い知識の習得と広域的な交流を目的に、県南三普及センターが合同の広域講座を行っています。各センターの地域特性を活かした講座を行うことで、内容の充実を図っています。今年は、土浦普及センターが有機農業、稲敷が稲作、つくばがマーケティングに関する講座を開催しています。

また、年度末の講座では、各地区の後継者組織による組織紹介を通して、学園生がスムーズに地域との繋がりを持てるよう支援していきます。

新規就農者は、地域農業を支える大切な存在です。農業学園を中心として、地域に根ざした農業を行えるようサポートしていきます。農業学園に興味のある方は是非、ご連絡下さい！





## どうぞよろしくお願いします

今年度、新たに以下の皆さんが女性農業士、青年農業士として茨城県知事の認定を受けました。

### 女性農業士

**石岡市　鈴木　朋子 氏（露地野菜）**

ＪＡＳ有機認証を取得し、有機野菜を主体とした経営を行っています。ＪＡやさと女性部に所属し、農産物の摘み取り体験など消費者との交流を図っています。

### 青年農業士

**土浦市　井沢　夏樹 氏（水稲＋露地野菜）**

水稲と露地野菜の複合経営による所得の安定と年間労働の効率化を図っています。ＪＡ土浦青年部はばたく会の前会長であり、地域のリーダー的な存在です。

**土浦市　萩原　文宏 氏（普通作＋野菜）**

水稲を中心とした土地利用型大規模経営を目指し、麦・ソバの作付けにより機械を効率的に利用しています。ＪＡ土浦青年部はばたく会に所属し、地域農業の発展に貢献するなど、今後の活躍が期待されます。

**石岡市　田口　靖浩 氏　花木（苗木）**

花木苗木を鉢物として養生し、高品質鉢物として提供しています。需要が安定した品種を扱うことにより、販売先の要望に的確に応え、安定した販売を行っています。ＹＡＣの元会長であり、積極的にクラブ活動にも参加しています。

**かすみがうら市　圓城寺　洋平 氏　花木・果樹（苗木）**

多様な樹種及び品種を扱うことにより、販売先の要望に的確に応え、安定した販売を行っています。綿密な作付計画により、連続して近縁な樹種を作付しないようにしています。かすみがうら市４Ｈクラブの元会長を務めるなど、地域のリーダー的な存在です。

## ありがとうございました

今年度、以下の皆さんが退任されました。

**女性農業士**

石岡市　樫村　成氏
かすみがうら市　沼田　悦江氏

**青年農業士**

土浦市　五木田　宏氏
土浦市　磯原　昌幸氏
土浦市　柳沢　浩二氏
石岡市　飯村　伸一氏

## いばらき営農塾の開催

県立農業大学校（茨城町長岡）で開講される、いばらき営農塾（営農支援研修）の今後の予定は、野菜園芸を中心に基礎知識と技術を学ぶＢコース（概ね四五歳までの方が対象）が、一二月七日から三月九日までの水曜日と土曜日となっています。申し込み締め切りは一一月九日です。希望される方は、普及センターまでご連絡ください。

## 平成25年度 茨城県立農業大学校学生募集

専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。

### ■ 募集人員等

| 区分 | 学科名 | 募集入員 | 主な対象 | 修業年限 | 専攻コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 学科 | 農学科 | 40名 | 高校等を卒業した者又は平成25年3月に卒業若しくは修了見込みの者 | 2年 | 普通作・露地野菜・果樹 |
| | 畜産学科 | 10 | | 2年 | |
| | 園芸学科 | 30 | | 2年 | 施設野菜・花き |
| 研究科 | | 10 | 農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者 | 2年 | 作物・園芸・畜産 |

### ■ 願書受付・入学試験

| 試験区分 | | 願書受付機関 | 試験日 | 選抜方法 |
|---|---|---|---|---|
| 推薦入試（各学科） | | 平成24年10月2日(火)～10月17日(水) | 平成24年10月26日(金) | 小論文 口述試験（個別面接） |
| 一般入試（各学科） | 前期 | 平成24年12月12日(水)～平成25年1月11日(金) | 平成25年2月1日(金) | 筆記試験 口述試験（個別面接） |
| | 後期 | 平成25年2月8日(金)～平成25年2月26日(火) | 平成25年3月5日(火) | |
| 研究科一般入試 | | 平成24年10月2日(火)～10月17日(水) | 平成24年10月26日(金) | 筆記試験 口述試験（個別面接） |

■ 問い合わせ先　〒311－3116　東茨城郡茨城町長岡4070－186
茨城県立農業大学校　入試事務局　TEL029－292－0010

■ 農大ホームページ　http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/

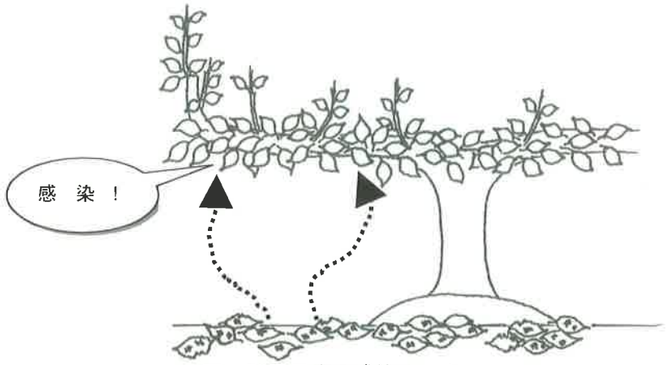
## 営農トピックス　来年度のニホンナシの黒星病対策は秋季防除から始まります

平成二四年度の黒星病は、芽基部病斑が少ない割りに、葉柄や果実にすす状の病斑が発症することが多い傾向がありました。これは、前年に感染した葉が落葉し、そこで越冬した菌が、春になって胞子を飛ばして第一次感染源となったことが原因として考えられます。こうした感染ルート（図）を断ち切るために、今年の秋季から対策を徹底しましょう。

（対策①）本県の参考防除例に従い、葉への秋季感染を予防します。

（対策②）落葉を園外に持ち出し、感染源を減らしましょう。

落葉を集めて持ち出す作業は手間がかかりますが、薬剤による防除と同等かそれ以上に効果のある対策方法と言われています。是非可能な範囲で実施しましょう。特に、今年度発生の多かった園などでは、感染源がかなり多くなっている可能性がありますので、ご注意ください。




◀黒星病に感染した落葉から降雨時などに胞子が飛散

図　梨黒星病の感染ルート

### ☆サツマイモとしらすの米粉かき揚げ☆

普及センターでは、地元産米粉の利活用を推進しています。今回は、農村女性ネットワークの地場産野菜交流会でJA土浦都和女性部から提供いただいたレシピをご紹介いたします。米粉は油の吸収が少ないため、かき揚げもカリッとヘルシーに仕上がります。ぜひご家庭でお試しください。

＜材料（4人分）＞
サツマイモ …400g
しらす…ひとつまみ
米粉 ……1カップ
薄力粉……少々
水 ……1.5カップ
卵……１個
揚げ油……適量

＜作り方＞
①サツマイモは皮をむき、せん切りにして水に10分浸す。
②サツマイモを水からあげて水気を切り、しらすとあわせて薄力粉をまぶす。
③ボールに米粉、水、卵を入れて混ぜる。
④②と③をあわせて180℃の油でカリッとなるまで揚げる。皿に盛り、塩かそばつゆで食べる。

養豚協会青年部は、経営向上のため、会員相互の情報交換と、定期的な学習会を予定しています。

豚価の低迷など、養豚経営には厳しい状況が続いていますが、若い養豚農家の経営が発展するよう、期待しています。

**石岡市**
**JAひたち野直売所オープン**

石岡市南台のJAひたち野本店敷地内に直売所「大地のめぐみ」が九月一日オープンしました。

直売所には、地元産の野菜・果物・花・畜産物等やそれを利用したパン・お総菜等の加工食品が並びます。

また、イートインのコーナーも設置され、アイスクリーム（梨等、季節限定県産品利用）やコーヒー、パン、お総菜等を飲食することができます。

地域特産物「ゆめかおり」小麦の焼きたてパンや、卵黄がレモン色の〝ほの香〟卵、皮の柔らかなブルームきゅうりも登場します。

冬には、甘くて柔らかな赤葱も並ぶ予定で、地産地消の推進が期待されています。





## 営農トピックス　コシヒカリの適期収穫と適正な乾燥・調製

【適期収穫】

**早刈り**
●青米が多くなる
●千粒重が軽くなり、収量も低下する

**収　穫　適　期**

◎出穂期から 35～40 日後程度
◎帯緑籾率が 10%から 5%になる５日間

帯緑籾の見分け方

収穫適期判定目安

| 帯緑籾率 | 収穫適期 |
|---|---|
| 20% | 6～7 日前 |
| 15% | 4～5 日前 |
| 10～5% | 適期 |
| 3% | 刈遅れ |

**刈遅れ**
●収穫ロスが増える
●胴割粒や着色粒が多くなる

【適正な乾燥・調製】

**二段乾燥法**

**一段目**
★籾水分 18% 程度で停止
★1 日以上貯留

**二段目**
★籾水分 15% までの乾燥

**調製**
★籾摺りは穀温を外気温程度まで下げてから
★ 1.85mm 以上の篩目

成し、健全なものを利用する。
・畦畔の補修などで、隣接するほ場からの土や水の移動を防ぐ。
・発病が疑われるほ場では石灰窒素を散布する。商品により農薬登録の内容が異なるので注意する。
・発病が疑われるほ場で使用した器具はよく洗浄し、線虫の移動を防止する。
・上流で発病がある場合は、早生品種を作付け、症状が悪化する前に収穫する。
・発生ほ場では、水を切って乾田化し線虫密度を低下させる。
・線虫が寄生する被害レンコンや根などの残渣は、なるべくほ場の外に持ち出し、処分する。
・レンコン以外に、周辺雑草にも寄生・増殖するため、除草を徹底する。

## 営農トピックス　レンコンに発生する黒皮線虫病について

レンコンで発生する黒皮線虫病は連作障害の一つで、レンコンネモグリセンチュウという体長が二～二・五㎜程度の細長い糸状の体の線虫により引き起こされます。

**【症状について】**
レンコン表皮に黒い小斑点が生じ、ひどくなるとかすり状の褐変ができ、表面が凸凹になるなどの症状が生じます。また、肌の色も全体に黄ばみがかります。

**【対策について】**
・種バスは本病が未発生のほ場で育

県では防除対策の研究を急いでいますが、実用的な技術の開発には時間がかかる恐れがあります。発生の拡大を出来る限り抑制するためには、複数の対策を総合的に講じる必要があります。

▲レンコン黒皮線虫病の被害

## まちからむらから

**土浦市**
**ナシ栽培のトップを目指して**

土浦おいしい梨研究会（ＴＯＰ）は、土浦市内でナシを栽培する若手生産者五名の組織です。ナシ栽培のトップを目指そうと、平成二一年一一月に設立されました。

現在、多くのナシ産地では、単位面積当たりの収量低下が問題になっており、若木への更新が主な課題となっています。しかし、若い世代は若木育成の経験が少ないのが現状です。そこで、ＴＯＰでは、ナシの若木育成をテーマに掲げ、知識の習得や技術の向上を図っています。会の活動も三年目となり、ナシを作る仲間として、お互いに忌憚のない意見を出し合い、議論し、相互研鑽できるようになってきました。

販売は系統出荷と直売を行っていますが、美味しいナシを作り、お客様に食べていただきたいとの思いは皆同じです。今後も、仲間とともに、美味しいナシを消費者に届けられるよう、ナシ作りに励みます。

**かすみがうら市**
**県南地区養豚協会青年部が発足**

八月一〇日、県南地区養豚協会青年部が、廣原　賢氏（かすみがうら市）を会長として発足しました。

# 土浦普及センターだより

平成25年3月25日　No.34
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5－17－26
電話　029－822－8517
FAX　029－822－7370
URL：http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## 地元産農畜産物、加工品をPR

一一月二七日、土浦市の国民宿舎「水郷」において、土浦地域管内の市、JA、県南農林事務所経営・普及部門で構成する、新たな買ってもらえるものづくり推進会議が、地域の農畜産物や加工品を外食事業者や消費者に知ってもらうための、「土浦地域農畜産物ブランド品PR会」を開催しました。

農畜産物の展示・試食会では、県南農林事務所経営・普及部門管内のJA、生産団体、高校等一五団体が、蓮根豚、つくばしゃも、いしおかサンド、ブルーベリー加工品等三六品目を出展し、参加した事業者との活発な商談を行いました。

展示・試食会

その後、生産者、販売業者、加工業者、行政それぞれの立場から、「もっと生産者と出会う場を増やして欲しい」、「商品をPRする上でもっと具体的な提案が必要」（販売業者、加工業者）、「六次産業化を農業者個人で完結するのは難しい」（生産者）と地元の農畜産物をもっと食べてもらう、使ってもらうための意見交換を行いました。

参加者へのアンケートでは、「今回の交流会はとても良かった。また、同じような企画をして欲しい」、「地元に魅力的な生産者がたくさんいることがわかりました」との感想があり、地元の農畜産物ブランド品を多くの人に知ってもらうPR会となりました。

出展団体と事業者との意見交換会

# 女性農業士会で食農体験交流会を開催

## ～栄養士を目指す学生に向けて～

女性農業士会土浦支部では、今年度、つくば国際大学栄養学科と協力し、管理栄養士を目指す学生に向けた食農体験交流会を開催しました。

今年は梨をテーマにし、六月に摘果体験、十月には収穫体験を行いました。梨園に入るのも、摘果や収穫作業も初めてという学生も多く、とても貴重な体験だったという感想が多く聞かれました。

収穫体験の際には、梨ジャムやコンポート作りも体験し、加工に向く品種や作り方のコツを学生に伝えました。

さらに、体験で収穫した梨は大学の給食実習で活用され、女性農業士を交えた給食の試食と意見交換会も行われました。意見交換会の中では、学生が考えた地場産野菜給食（レンコンハンバーグ・梨のコンポート等）を試食したほか、学生によるアイディア梨料理の発表もありました。

今回の一連の体験を通して、学生からは「農業に興味を持った」「今後、地場産野菜を活用したメニューを考案したい」等の意見が聞かれ、自分たちが携わる「食」が「農業」と密接に関わっていることを肌で感じたようでした。

普及センターでは、地場産野菜の活用を目指して、今後も食育活動を支援していきます。

摘果体験の様子

意見交換会の様子と学生が考案した地場産野菜給食

# レンコンでのハスモンヨトウに対するフェロモントラップの効果

平成二四年、土浦市の田村地区と沖宿地区が、レンコン田におけるハスモンヨトウに対する防除対策の一つとして、フェロモントラップを用いた広域防除を行いました。

ハスモンヨトウは、メスが「性フェロモン」という物質を放出してオスを誘導し交尾を行います。その性フェロモンを製剤化した「フェロディンSL」を「ファネルトラップ」という捕虫器に入れると、そこに性フェロモンに誘われたオスが捕獲されます。これにより地域全体での交尾が減少し、次世代幼虫が減少します。

沖宿では七月下旬に、田村では八月上旬にトラップを合計約百五十町歩という広大な面積に設置しました。その結果（図）、沖宿と田村では、トラップを設置しなかったA地区はB地区と比較し、ハスモンヨトウによる被害が低く推移しました。

沖宿では平成二三年も、本防除法に取り組んでおり、平成二四年同様にハスモンヨトウの被害を減少させることに成功しています。

一見、簡単に防除できて取り組みやすいように見えるフェロモントラップですが、大事な注意事項があります。トラップは対象地域の成虫密度が低い発生初期から広範囲（十町歩以上）で、一町歩当たり二～四台設置して下さい。狭い範囲での使用や、発生が多くなってからの使用では十分な効果は期待できません。新たに使用する場合には、商品の使用方法を十分に確認するとともに、地域で相談して広い範囲で設置し、設置時期にも注意しましょう。

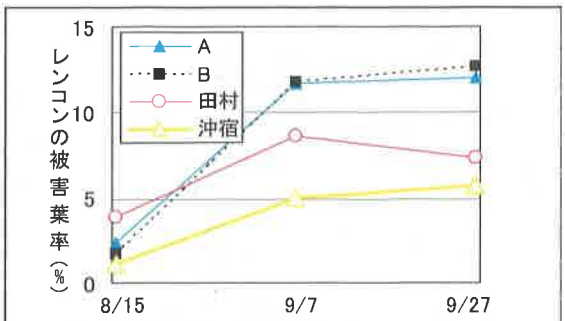



図　地区別のハスモンヨトウによるレンコンの被害葉率の推移

※被害葉率（%）=（被害葉数／調査葉数）×100

みんなで進めよう
茨城農業改革

# 土浦普及センターだより

平成２５年１０月１日　No.３５
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎３階
土浦市真鍋５－１７－２６
電　話　０２９－８２２－８５１７
ＦＡＸ　０２９－８２２－７３７０
ＵＲＬ：http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## ～魅力ある加工品づくりを目指して～
## 農村女性大学を開設

▲米粉菓子の調理実習

◀加工所見学・意見交換の様子

近年、農業の「六次産業化」の取り組みが活発化しており、土浦地域でも地場農産物を利用した加工品づくりを始める農業者が増えています。当部門では、管内の農産加工実践者および志向者を対象に農村女性大学を開設し、魅力ある加工品づくりを支援しています。

平成二三・四年度は、コメの消費拡大を図る方法として注目されている米粉を取り上げ、講習会を通して加工特性を学び、惣菜や菓子の調理実習を行いました。また、包装資材の活用講座や商品ＰＯＰの製作実習、他産地の米粉加工品が出展されるイベントに参加することで、『売れるものづくり』の要素を学びました。最終講座では受講生が自作した米粉加工品の求評会を開き、商品化を期待されるものが数多く出品されました。

平成二五年度は、ＪＡひたち野直売所「大地のめぐみ」出荷者を対象に、テーマ『安全・安心な加工品づくり』のもと、衛生管理と食品表示に関する講習会や加工所巡回を実施しています。また、旬の農産物を活用した調理実習も開催し、直売所ならではの商品開発につながることが期待されます。

今後も普及センターでは、受講生ニーズを把握しながら、加工品の開発・販売活動を支援していきます。





## 農業経営士等新たに五名が認定

今年度、新たに次の方々が認定されました。今後、地域のリーダーとしての活躍が期待されます。

### 農業経営士

**土浦市　土肥　成男　氏　（露地野菜）**

レンコンの専作経営で、作型に応じた品種を組み合わせ、経営安定を図っています。土浦レンコン研究会員、ＪＡ土浦理事として、地域農業の発展に貢献しています。

**石岡市　田上　勝彦　氏（花き＋苗木）**

果樹苗木、水稲、コギクを組み合わせた複合経営で、苗木では雇用を活用して管理を充実させ、特級苗を多く生産しています。フラワーサクセスクラブの元会長として地域花き振興の一翼を担っています。

**石岡市　鈴木　寿光　氏　（花き）**

花き専作で、シクラメンとカーネーションを生産しており、手灌水でのきめ細かい管理で、良品生産につなげています。フラワーサクセスクラブの元会長として地域の花き生産をリードしています。

### 青年農業士

**土浦市　高橋　剛史　氏**
**（水稲＋露地野菜＋施設野菜）**

水稲、多品目露地野菜とイチゴ施設栽培の組み合わせにより所得向上と労力分散を図っています。ＪＡ土浦青年部前会長を務め、今後の活躍が期待されます。

**かすみがうら市　酒井　優一　氏　（苗木）**

五十年間培われた苗木生産の伝統的技術を守り、果樹・花木生産に取り組んでいます。かすみがうら市４Ｈクラブでは地域奉仕活動を行うなど、地域の担い手としてがんばっています。

### ありがとうございました

今年度、以下の皆さんが退任されました。

農業経営士
土浦市　萩原　巌　氏
石岡市　神生　賢一　氏
石岡市　比企　正男　氏

青年農業士
かすみがうら市　山口　賢一　氏

## いばらき営農塾のご案内

いばらき営農塾は、これからの農業を担う方々を支援する目的で、茨城県立農業大学校で開講している研修です。基礎的な農業技術を体系的に学べる講義と実習を行っています。

今後の開講予定は、茨城町の本校で、野菜園芸を中心に学ぶＢコース（概ね四五歳まで）が、一一月二七日～三月一日の水曜日と土曜日を中心に開講されます。申込み締め切りは十月二五日です。希望される方は普及センターまでご連絡ください。

## 平成26年度茨城県立農業大学校学生募集

**専修学校であり大学への編入学の受験資格が得られます。**

**入学定員**

| 区分 | 科名 | 入学定員 | 主な対象 | 修業年限 | 専攻コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 学科 | 農学科 | 40名 | 高等学校等を卒業した者又は平成26年３月に卒業若しくは修了見込みの者 | ２年 | 普通作・露地野菜・果樹 |
| | 畜産学科 | 10名 | | ２年 | |
| | 園芸学科 | 30名 | | ２年 | 施設野菜・花き |
| 研究科 | | 10名 | 農業大学校卒又は短期大学等卒以上若しくは卒業見込みの者 | ２年 | 作物・園芸・畜産 |

**募集人員・願書受付・入学試験**

| | | |
|---|---|---|
| 学科 | ◆推薦入試 | |
| | ・募集人員 | 各学科定員の60％程度 |
| | ・願書受付期間 | 平成25年10月１日(火) ～ 平成25年10月16日(水) |
| | ・試験日 | 平成25年10月25日(金) |
| | ・選抜方法 | 小論文・口述試験（個別面接）・調査書等 |
| | ◆一般入試（学科） | |
| | ・募集人員 | 各学科定員の40％程度<br>（前期・後期の割合は概ね３：１とします） |
| | ・願書受付期間 | **前期**　平成25年12月11日(水) ～平成26年１月10日(金)<br>**後期**　平成26年２月７日(金) ～平成26年２月26日(水) |
| | ・試験日 | **前期**　平成26年２月４日(火)<br>**後期**　平成26年３月５日(水) |
| | ・選抜方法 | 筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等 |
| 研究科 | ・願書受付期間 | 平成25年10月１日(火)～平成25年10月16日（水） |
| | ・試験日 | 平成25年10月25日(金) |
| | ・選抜方法 | 筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等 |

◎　詳しくは入試事務局にお問い合わせください。

■　問い合わせ先
〒311－3116　茨城県東茨城郡茨城町長岡４０７０－１８６
《入試事務局》　TEL　０２９－２９２－００１０

## 営農トピックス 水稲収穫後の多年生雑草防除及び土づくりのポイント

近年、県内の水田では多年生雑草のクログワイ、オモダカが増加しており、全県下で問題になっています。多年生雑草は一旦蔓延すると防除に多大な労力と除草剤のコストがかかりますので、翌年度の発生を極力抑える対策を行いましょう。

**【耕種的防除】**

クログワイは地下部に翌年以降の発生源となる塊茎を形成します。このため、水稲収穫後になるべく早く耕起し、塊茎の形成を妨げることが大切です。また、塊茎は冬季の乾燥に弱いので、厳寒期にもう一度耕起し、塊茎を地表面に露出させることで、低温と乾燥により塊茎の生存率を低下させることができます。

**【除草剤による防除】**

多発生ほ場の場合、水稲収穫後直ちに耕起せず、再生したクログワイ、オモダカに対し非選択性茎葉処理除草剤（ラウンドアップマックスロード等）を散布することをお勧めします。

また、これらの対策を行うのと同時に、今年の除草管理について問題がなかったか、次の四つの項目を中心に振り返り、次年度に活かしましょう。

①雑草の発生量、種類
②使用した除草剤名と成分
③除草剤散布時期
④水管理（漏水の有無や止水管理）

写真　上／クログワイ本体・塊茎
下／オモダカ本体・塊茎

**【健全な土づくり】**

翌年の栽培に備え、収穫後は土づくりに努めましょう。

稲わらは、収穫直後の気温が高い時期にすき込みます。このとき、浅めに耕起することにより、分解が促進されます。

たい肥を利用する場合は、完熟したものを〇・五t／一〇a程度を目安に、十一月中旬頃までに施用します。

## 営農トピックス レンコン田に発生するスクミリンゴガイについて

スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）の発生が一部地域で見られていますが、繁殖力が強いため、多発すると防除が困難になります。

**【形態及び特徴】**

・成貝は三～八センチメートル、殻は約五層で右巻き、四～五層が広い。
・一対の長い触角を持つ。
・殻は薄く、壊れやすい。
・卵は鮮やかなピンク色、数百個の塊（卵塊）で、レンコンの茎や水路の壁面などに産卵する。

**【防除対策】**

・貝は見つけ次第捕殺し、ピンク色の卵塊は水中に払い落とします。黒っぽくなった卵塊はふ化直前の状態なので、すりつぶします。その際、素手で貝に触れない下さい。
・石灰窒素を植付前に処理します。なお、石灰窒素は商品により農薬登録の内容が異なるので必ずラベルを確認して下さい。
・代かきにより殻を破損させ、殺貝します。多発田では通常よりも多めに代かきして下さい。
・水路からの侵入を防ぐため、取水口にネットや金網（網目五ミリメートル以下）を設置して下さい。
・野菜くずを畦畔沿いの水面に固定します。これに集まった貝を頻繁に捕殺します（放置すると増殖の原因となるので注意して下さい）。

**【まとめに】**

多発した場合、一つの防除対策で十分な効果を得ることは困難です。また、個々の農家での対応では不十分な場合もあります。地域で複数の対策を講じて地道に密度を減らす必要があります。

▲スクミリンゴガイ（左下は卵塊）

## まちから むらから

### 土浦市
### 土浦れんこん道場が開催

七月二八日、市、JA、生産者、茨城大学等で組織する「土浦市霞ヶ浦周辺地区都市と農村交流事業推進協議会」が、「土浦れんこん道場」を開催しました。

これは地域の特産物であるレンコンの魅力を一般参加者に広く知ってもらうための催しで、年四回開催する予定です。

初回となる今回は、生産者からレンコン栽培の話を聞いたあと、満開のハスの花を見学しました。また、昼食としてJA土浦や生産者が準備したレンコンカレーや天ぷら等を提供しました。

参加者は、レンコンの栽培方法や生態について熱心に質問を出し、さらに工夫が凝らされた昼食に満足そうな笑顔を見せていました。

今後は季節ごとに異なる表情を見せる霞ヶ浦地区を体験するため一一、二、四月に収穫等の内容で開催される予定です。

▲レンコン田を見学する様子

### かすみがうら市
### かすみがうら市農業三士の会が現地研修会を開催

六月二七日、かすみがうら市の農業経営士、女性農業士、青年農業士及びOBで組織される農業三士の会が現地研修会を開催しました。

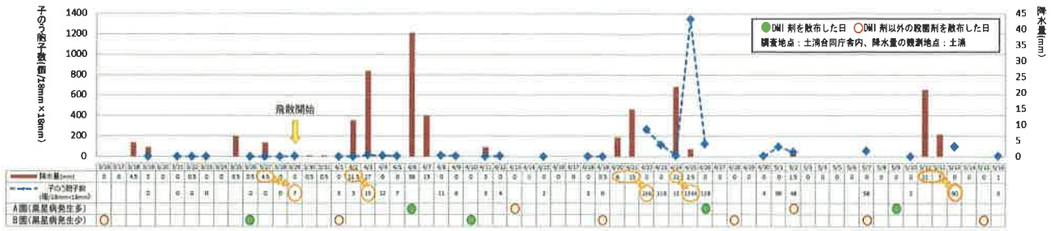
これまでは、役員会や先進事例の視察研修が主な活動内容でしたが、今回初めての試みとして、市を代表する品目であるレンコン・ナシ・水稲を栽培している会員三名のほ場を見学しました。





## 営農トピックス ナシ黒星病適期防除のポイント

**黒星病子のう胞子飛散調査結果（2013年3～5月調査）**



昨年の黒星病多発を受け、普及センターでは、本年三～五月に黒星病子のう胞子の飛散状況を調査しました（写真）。その結果と、降水量、黒星病多発生園（A園）と少発生園（B園）の防除履歴を比較し（グラフ）、ポイントをまとめました。

**①最初の防除時期が重要**

本年の子のう胞子の飛散は三月二九日から見られ、降雨後に顕著に増加しました（〇）。これに対し、A園は四月六日、B園は三月一六日に最初の防除を実施しています。A園の防除開始は鱗片脱落期以降であり、防除開始の遅れが、その後の多発に繋がった一因と考えられます。

**②降雨前の防除が重要**

防除の間隔は、A園は最大で十二日、B園は十日以内と、特に長くはありませんでした。しかし、降雨とのタイミングをみてみると、B園は降雨前に防除していたのに対し、A園は降雨数日後でした。黒星病の感染は、五～二五℃の間では一二時間（二〇℃なら九時間）の濡れ時間があれば成立すると言われています。降雨後の散布では、既に感染が成立した後に防除することになりかねません。降雨前の防除が重要です。

**③秋季防除の徹底と落葉処理**

秋型病斑上の黒星病菌は、芽基部に感染して翌春の伝染源となる他、落葉上で越冬して、翌春、子のう胞子を飛散させます。落葉までの間の秋季防除を徹底し、翌春の伝染源を少しでも減らすとともに、多発園では、落葉処理を行いましょう。

## 農業後継者組織紹介
## ～ヤサトアグリカルチャークラブ～

ヤサトアグリカルチャークラブ（通称ＹＡＣ）は、石岡市八郷地区の若手農業者によって構成される農業後継者組織です。会員数は現在24名で、経営品目は有機野菜、施設花き、肥育牛、酪農など多岐に渡ります。

八郷の魅力を発信し、地域農業を活性化させることを目指して、インターネット販売や新品目についての勉強会を行ったり、石岡市のお祭りや都内での販売イベントに積極的に参加しています。また、地域活動として、農業体験と出会いの場を提供する「いばビト農コン@いしおか」の開催に取り組んでいます。

▲勉強会の様子

▲いばビト農コン@いしおか（第1回目）の様子

レンコンのほ場ではウキクサの防除や鳥害について、ナシのほ場では春先の霜やハクビシンによる被害の状況、出荷規格について、水稲のほ場では今年の生育状況や水管理についての質問が出され、活発な情報交換が行われました。

参加者からは「普段見慣れない品目のほ場はとても興味深かった」「同じ品目であっても他の生産者のほ場を見る機会は少ないので参加して良かった」といった声が聞かれ、有意義な研修会となりました。

今後も、内容を充実させながら現地研修会を継続的に行っていく予定です。

### 石岡市
### ＪＡひたち野石岡梨部会で梨ボランティア育成開始

ＪＡひたち野石岡梨部会では深刻化する労力不足を解消するため、市民ボランティアを募集し人工授粉・摘果・収穫等に活躍してもらう人材の育成を始めました。

今年度は、定年退職された二名から応募があり、摘果講習会と作業実習を行いました。一年間は研修期間として必要な知識・技術の習得をし、来年度からは部会員の希望に応じて各ほ場に派遣される予定です。二名のボランティアは非常に熱心に研修に取り組み、指導にあたった部会の役員との信頼関係が生まれつつあります。

こうした取り組みは、労力の補完にとどまらず、農外との交流促進のきっかけとなり梨産地を活性化させることが期待されます。

みんなで進めよう
茨城農業改革

# 土浦普及センターだより

平成26年1月27日　No.36
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦合同庁舎第二分庁舎3階
土浦市真鍋5－17－26
電話　029－822－8517
FAX　029－822－7370
URL：http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## 『いしおかフルーツプロジェクト』始まる!!

上　徹底した管理で生産された果実と大学生デザインによる化粧箱
左上　高品質果実の試験販売
左　筑波大学の学生による農作業体験

石岡市では、今年度から、梨、ぶどう、柿のブランド化のための高品質果実の生産と差別化販売を推進する「いしおかフルーツプロジェクト」を立ち上げました。このプロジェクトは、市と果樹農家、筑波大学（芸術系）、関係JA、経営・普及部門で構成され、産・官・学連携による取組となっています。

高品質果実の生産については、このプロジェクトに参加した果樹農家と経営・普及部門が協議し、品種や栽培方法、品質・規格の統一化のための基準を設けました。品種は、梨が県育成品種の「恵水」、ブドウは「シャインマスカット」、柿は「太秋」です。栽培方法は、ほ場及び樹を特定し、また栽培管理技術は、研究機関で開発したものを活用しています。さらに、厳選した果実を販売するために厳しい選果基準を設けました。

また、試験販売のためのパッケージやロゴマークの作成は、筑波大学のアートデザインプロデュース（adp）という授業の中で取り組まれました。adpに参加した学生は、農作業体験等で得られた石岡市の自然や果樹のイメージを、パッケージやロゴに見事に表現しました。

差別化販売の推進については、市が中心となって都内や市内直売所などで試験販売を行いました。この取組には、adpに参加した多くの学生が支援に訪れ、販売促進や石岡市のPRに熱心に取り組んでいました。梨及びぶどうについては、九月七日から二三日にかけ、都内二ヶ所（茨城マルシェほか）及び市内直売所二ヶ所でぶどう一房五千円から七千円、梨一箱（二個入り）二千円で販売しました。さらに、柿は、十一月九日及び二三日に西武百貨店つくば店で一個五百円から千五百円で販売しました。なお、準備した数量は、すべて完売しました。

今後、経営・普及部門では、産地と大学との連携をサポートするとともに、市や関係JA等と連携してプロジェクトを推進して行きます。

# 土浦地域青年農業士会が石岡一高生との交流会を開催

十月四日、石岡一高にて、土浦地域青年農業士会が園芸科一年生（四十名）と、地域農業のPRと農業の楽しさを伝えることを目的に交流会を開催しました。

はじめに、青年農業士からパワーポイントを使って青年農業士会の活動や各自の経営内容、農作業風景、農業をすることの楽しさなどを紹介しました。その後、冷凍いちごを使ったいちごジュースづくりやグループに分かれての意見交換を行いました。生徒達は、はじめは話を聞いているだけでしたが、持参したレンコンやバラの花束を手に取るなどする内に、次第に和やかな雰囲気になり、会話も弾むようになりました。

生徒は、八割が女子で、現段階では就農を考えている生徒は少ないようでした。青年農業士も「自分たちが在学中は、就農することなんか全く考えていなかった。今は、学業を頑張り、友達と良い思い出をたくさん作って欲しい。そして、農業の楽しさを少しでも感じて欲しい。」とアドバイスをしていました。

青年農業士からは、「未来の農業を担う高校生との交流は非常に楽しかった。」と好評でした。また担当教諭から、「生徒達はもっと消極的になるかと思っていたが、非常に楽しそうに交流できていた。来年も交流したい。」との提案を頂きました。

普及センターでは、今後もこのような交流会が開催できるよう、青年農業士会の活動を支援して行きます。

意見交換の様子

農作業を写真で紹介

実際に農産物を手に取り感激！

# 土浦地域農畜産物ブランド品PR会を開催

一一月一二日、石岡市役所八郷総合支所において、土浦地域管内の市、JA、県南農林事務所経営・普及部門（土浦地域農業改良普及センター）で構成する、『新たな買ってもらえるものづくり推進会議』が、地域の農畜産物や加工品を外食事業者や消費者に知ってもらうため、「土浦地域農畜産物ブランド品PR会」を開催し、生産者、外食事業者など九一名が参加しました。

当日は、まず「売れる商品を創るための商品ストーリーは出来ていますか？」と題した6次産業化プランナーによる講演と、パプリカの生産加工・販売を行っている水戸市の生産者からの事例発表がありました。

続いて、当部門管内のJA、生産団体、高校等一六団体が農畜産物や加工品の展示・試食会を行いました。れんこん加工品、甘納豆、蓮根豚、つくばしゃも、高品質フルーツ（太秋・富有柿）などの出展があり、参加した事業者との活発な商談も行われました。

その後、出展団体と参加事業者が、生産者、加工業者、販売業者、行政それぞれの立場から、地元の農畜産物をもっと利用してもらうための意見交換を行いました。

参加者からは「今回のPR会はとても参考になった。今後も同じよう企画をして欲しい。」との意見がありました。

普及センターでは、今後も農業者の六次産業化の取組、地産地消の推進を支援していきます。

石岡市の高品質フルーツをPR

かすみがうら市特産物を使用

土浦市の高校生が制作しました

みんなで進めよう
茨城農業改革

# 土浦普及センターだより

平成２６年９月２６日　№３７
茨城県県南農林事務所経営・普及部門
（土浦地域農業改良普及センター）
土浦農業改良普及事業推進協議会
土浦合同庁舎第二分庁舎３階
土浦市真鍋５－１７－２６
電話　０２９－８２２－８５１７
FAX　０２９－８２２－７３７０
URL:http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nourinjimu/kennan/tsuchiura/index.html

## 土浦おいしい梨研究会

写真右上　現地研修
写真左上　鳥取県二十世紀記念館
写真右下　鳥取大学農学部（田村学部長と）

鳥取県内のナシ栽培の歴史及び生産の現状、後継者育成、ナシ栽培技術全般について話しを伺い、今後の経営に多くのヒントをいただきました。

土浦おいしい梨研究会（会員：五名、会長：萩原隆史氏）は、ナシの若木育成技術の習得と向上を目的に、平成二二年に設立されました。土浦市内の若手ナシ生産者が集まり、先進地研修会や現地検討会、食味会等を行っています。

今年は、鳥取県で先進技術研修を行いました。鳥取大学、鳥取県園芸試験場、現地ナシ園等を訪問し、ナシ栽培技術や産地の状況について見識を深めました。

特に印象に残ったのは、産学官の連携と、植物生理に則った栽培管理技術の高さです。鳥取県は、言うまでもなく二十世紀梨の産地ですが、なぜ鳥取県で産地が形成されたのかを垣間見ることができました。

また、当研究会では、ナシの改植を見込んで若木育成技術の検討を続けているところですが、なかなか改植に踏み切れないのが現状です。研修では、このような状況に対し「イメージを持つことが重要」という助言をいただき、樹・園・将来の経営について、改めて考え直すきっかけになりました。

研究会では、今後、活動の輪を広げていきたいと考えています。興味のある方は、是非、普及センターまで御連絡ください。





## どうぞよろしくお願いします

今年度、新たに女性農業士として、かすみがうら市の市村明代氏（露地野菜）が茨城県知事の認定を受けました。

かすみがうら市　市村　明代 氏
（露地野菜）

レンコン専作経営で、土質に合わせた品種選びで、良品質なレンコン生産に取り組んでおられます。かすみがうら市の女性消防団等でも積極的に地域に貢献しており、今後の活躍が期待されます。

## ありがとうございました

今年度、以下の皆さんが退任されました。

女性農業士
土浦市　高橋　洋子氏
石岡市　柘植　由美子氏
石岡市　小松　光子氏
かすみがうら市　中山　恵子氏
かすみがうら市　飯村　恵子氏

青年農業士
石岡市　久保田和博氏
かすみがうら市　今井　崇博氏

## 後継者組織紹介（養豚青年部）

県南地区養豚協会青年部は、平成二四年八月に、県南地域の養豚農家の後継者が、情報交換や研修会の開催、会員同士の親睦と地域農業の振興を図ることを目的として発足しました。現在は県南地域外の後継者も参加し、一四名で活動しています。

活動は、年に二回講師を招いて、豚の飼養管理や生産技術等についての勉強会を開いています。

また、孤立しがちな養豚農家の横のつながりを強めるため、情報交換会を開催し、会員同士の親睦を深めています。「これまで、同世代の養豚関係の友人が作りづらかったけど、仲間ができてよかった。」という声が会員の間から聞かれます。

昨年度は、農林振興公社の事業を活用して、県産豚肉のＰＲを行いました。つくば国際大学と連携し、会員が養豚の出前講座を行ったり、会員三名の育てた豚肉で官能検査を行い、将来栄養士等を目指す学生に向けて、豚肉の知識を深めてもらうことができました。

また、一般向けには、つくば国際大学文化祭や花フェスタに出店し、豚汁販売を通して県産豚肉をＰＲしました。

今後も、県南地域に限らず会員の参加を募り、活発な活動を続けていく計画です。

## 平成27年度 茨城県立農業大学校学生募集

農業の実践力を養います。大学への編入資格も得られます。

### ■ 入学定員

| 区分 | 学科名 | 募集入員 | 主な対象 | 修業年限 | 専攻コース |
|---|---|---|---|---|---|
| 学科 | 農学科 | 40名 | 高校等を卒業した者又は平成27年3月に卒業若しくは修了見込みの者 | 2年 | 普通作・露地野菜・果樹 |
| | 畜産学科 | 10 | | 2年 | |
| | 園芸学科 | 30 | | 2年 | 施設野菜・花き |
| 研究科 | | 10 | 農業大学校卒又は短大等卒以上若しくは卒業見込みの者 | 2年 | 作物・園芸・畜産 |

### ■ 募集人員・願書受付・入学試験

| | | |
|---|---|---|
| 学科 | ◆推薦入試 | |
| | ・募集人員 | 各学科定員の60%程度 |
| | ・願書受付期間 | 平成26年　9月30日(火)～ 平成26年10月15日(水) |
| | ・試験日 | 平成26年10月24日(金) |
| | ・選抜方法 | 小論文・口述試験（個別面接）・調査書等 |
| | ◆一般入試（学科） | |
| | ・募集人員 | 各学科定員の40%程度<br>（前期・後期の割合は概ね3：1とします） |
| | ・願書受付期間 | **前期**　平成26年11月12日(水)～平成26年12月　3日(水)<br>**後期**　平成27年　2月　6日(金)～平成27年　2月25日(水) |
| | ・試験日 | **前期**　平成26年12月12日(金)<br>**後期**　平成27年　3月　6日(金) |
| | ・選抜方法 | 筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等 |
| 研究科 | ・願書受付期間 | 平成26年11月12日(水)～平成26年12月3日(水) |
| | ・試験日 | 平成26年12月12日(金) |
| | ・選抜方法 | 筆記試験・口述試験（個別面接）・調査書等 |

◎　**詳しくは入試事務局にお問い合わせください。**
■ 問い合わせ先　〒311－3116　茨城県東茨城郡茨城町長岡4070－186
入試事務局　TEL029－292－0010
■ 農大ホームページ　http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/nodai/

## いばらき営農塾の御案内

いばらき営農塾は、講義や実習をとおして基礎的な農業技術を学ぶことができる、県立農業大学校で開講している研修です。

毎年、四コースを開講しています。

県立農業大学校のホームページから申込用紙をプリントできます。希望される方は普及センターまで御連絡ください。

## 営農トピックス　イネ縞葉枯病が増えています！

県西地域を中心に、昨年からイネ縞葉枯病の発生が多くなっており、一部では収量に影響が出ています。県南地域でも、昨年に比べるとかなり発生が増えていますので、まだ発生が少ないうちに防除対策を行いましょう。

イネ縞葉枯病は、イネ縞葉枯ウイルスを持ったヒメトビウンカ（写真1）がイネを吸汁することにより感染するウイルス病です

イネがイネ縞葉枯ウイルスに感染すると、本田初期では、新葉が細く巻き「こより状」に垂れ下がって枯れ上がります（ゆうれい症状、写真2）。後期感染では、葉に淡黄色の縦縞ができ、穂が出すくんだり（写真3）、出穂しても不稔になることが多く減収します。

今後の防除対策としては、①発病株から発生するひこばえをヒメトビウンカが吸汁すると、ウイルスを獲得してしまうので、収穫後は早めに水田を耕起し、ひこばえの発生を防止します。②冬から春にかけてのヒメトビウンカの越冬場所である畦畔の雑草管理を行い、幼虫の越冬密度を下げます。③来年の育苗時には、飛来するヒメトビウンカ成虫を対象に、薬効が長期持続する育苗箱施薬剤で防除します。

▲写真3

▲写真2

▲写真1

## 営農トピックス　「漏生（ろうせい）イネ」の発生を防ぎましょう！

今年度は、田植えした株以外の畝間や株間に生えた昨年の籾由来の「漏生（ろうせい）イネ」が多く見られました。多く発生した理由として、収穫時のこぼれ籾に加え、稲刈り後の気温が高く、稲の切り株から再生したひこばえが稔り、平年よりも多くの籾が田んぼに残ってしまったためと考えられます。温暖化の影響で、今後も稲刈り後の気温が高いことが予想されますので、ひこばえの発生を防ぐとともに、こぼれ籾を土中に鋤き込み発芽能力を失わせるように収穫後速やかに耕起しましょう。特に、収穫が早い早生品種では、ひこばえの稔実が多く発生するので、稲刈り後の耕起作業が重要となります。

漏生イネの混入は、作付けする品種が前年と異なる場合は、「異品種混入」となります。また、せっかく種子更新をしていても自家種子が混入してしまう事になります。さらに、ひこばえ由来の籾は全く防除を受けていないため、種子伝染性病害に犯される危険があります。このように、漏生イネは高品質・安定生産の妨げとなるため、発生の防止に努めましょう。

## 営農トピックス　レンコン田の防鳥ネットの管理について

防鳥ネットの効果をうまく発揮するためには、適切な管理が大切です。

**【鳥による被害の状況】**

日本一のレンコン産地である土浦市・かすみがうら市でのカモ類による被害額は、二億四千万円（平成二四年）に達しています（土浦市・かすみがうら市農作物鳥獣被害防止計画より）。具体的には、バン類やカルガモによる定植後の新芽や茎葉の被害、カモ類による肥大茎の食害が発生していると言われています（「頸（くび）を伸ばしたり、（中略）逆立ちして泥の中のレンコン（栽培中や昨年の残滓）を掘り起す」日本野鳥の会茨城県会報　ひばり　No.307（5）より引用）。

**【防鳥ネット管理のポイント】**

レンコン田への鳥の侵入を防ぎ、被害を防ぐためには、「サイドネット（側面のネット）を下までしっかり閉じる」ことが最も重要です。多くの水鳥は水田に飛来し着水した後、しばしば他の田まで歩いて移動するため、サイドネットが地面や水面までしっかり閉じられていないと、容易に侵入してしまいます。サイドネットはできるだけ下まで閉じましょう。

**【環境に優しい農業へ】**

防鳥ネットを適切に管理し、野鳥がレンコン田に侵入しにくくすることで、被害を防ぐだけでなく、野鳥がネットに絡まる事故を防ぐこともできます。特に、収穫後のレンコン田には、残渣を食べに多くの野鳥が侵入するため、**収穫を終えた後もネットをしっかり閉じる必要があります。**また、畦畔での作業時などにまくり上げたサイドネットを、緩くたるんだ状態にしていると、野鳥が絡まりやすくなります。まくり上げる場合は、たるまないようにしっかりと束ね、万が一、防鳥ネットに野鳥が絡まってしまった場合は、速やかに放鳥してください。

▲写真
下までしっかり閉じる

## まちからむらから

### 土浦市　初めての「田んぼアート」

土浦市では、「土浦市新治地区都市と農村の交流事業推進協議会」が中心となり、初めての「田んぼアート」に取り組んでいます。

「田んぼアート」は色の異なる稲を使って図柄を描くもので、六月八日（日）に、土浦市小野地区にある「小町の館」前の一三aの水田で田植え体験会が開催され、親子連れなどの参加者で賑わいました。

植えられた稲は順調に育ち、小野小町の姿が見事に浮かび上がりました（写真：こまちパラグライダースクール提供）。一〇月には稲刈り体験会が実施される予定です。

### かすみがうら市　農業三士の会が現地研修会を開催

六月二七日、農業三士の会が現地研修会を開催しました。同会はかすみがうら市の農業経営士、女性農業士、青年農業士及びOBから構成され、本研修会のほか、地域の祭事での直売会や視察研修を実施しています。

二年目となる今回は、千代田地区の二カ所のナシ園とキュウリのハウスを訪れ、市内を代表する各品目の経営について意見交換を行いました。ナシ園では栽培管理や病害虫防除についての質疑や、選果機の稼働状況を見学し、昨年収穫し貯蔵したナシを試食しました。キュウリのハウスでは抑制の作型に備えて、土壌をビニールで被覆し、太陽熱消毒を行っている様子を見学しました。

かすみがうら市農業三士の会は、これからも農業者のリーダーとして、産地の維持・発展に取り組みます。

### 石岡市　アップカットロータリーを利用した畝立て同時は種による麦・大豆の安定生産

石岡市八郷地区は、県内最大の採種の産地です。転換畑を利用した大麦、小麦、大豆の栽培では、湿害による収量低下が問題となっています。

そこで、平成二四年度より農業研究所と連携して、アップカットロータリーを利用した畝立て同時は種による実証を行いました。二年間の実証の結果、排水不良の水田転換畑においても、小麦では安定して四～五俵／一〇aの収量が得られています。

石岡市では、平成二五年度麦・大豆緊急対策事業を活用し、市内に六台のアップカットロータリーが導入されました。昨年に引き続き今年度も、アップカットロータリーを利用して、大粒大豆「里のほほえみ」の実証栽培試験を行っています。





## 営農トピックス　近年見られるナシのモザイク症状

近年、ナシの葉にモザイク状の障害が見られます。症状が著しい場合、新梢先端が落葉し、翌年の花芽形成にも影響を及ぼすと考えられ、注意が必要です。

以下、症状及び現在考えられている原因と対策を紹介します。

**●症状**

葉にモザイク状の退緑症状（写真1）が現れ、新梢に亀裂が入る（写真2）のが特徴です。上位葉ほど症状が進み（写真3）、ひどい場合は落葉します（写真4）。品種は「豊水」や「あきづき」に多いようです。

昨年は、一部の園で新梢の上位葉に見られるだけでしたが、今年は、より多くの園で果そう葉から症状が見られ、上位葉ほど症状が進みました。

▲写真4　症状がひどいと落葉

▲写真3
上位葉ほど症状が進む

▲写真1
葉の退緑症状

▲写真2　新梢に亀裂が入る

**●原因**

原因は特定されていませんが、農研機構果樹研究所のこれまでの調査では、ニセナシサビダニが一因と考えられています。

**●対策に向けて**

原因が特定されていないため、対策も確立されていないのが現状です。

原因の一つと考えられているニセナシサビダニの防除適期は、密度が低い五月上旬と、増えてくる六月上旬頃です。今年、四月及び五月にニセナシサビダニに登録のある殺虫剤を散布したところ、被害が軽く、新梢先端まで正常な葉が着生したという事例がありました。

今後、新たな知見が得られたら、改めてお知らせいたします。

## 営農トピックス　県オリジナル品種のご紹介

茨城県のコギクは、県内の切り花品目では栽培面積が第一位（全国で第二位）を占め、重要な花き品目です。県では七月、八月、九月の物日前後に出荷できる県オリジナル「常陸シリーズ」を育成しており、今秋から、新たに次の三品種が追加発売されます。

**サニーバニラ**
（7月東京盆出荷向け）
純白で、市場性の高い緑芯の花です。頂点咲きで花数が多く、草丈も長くボリュームがあります。

**サマールージュ**
（8月旧盆出荷向け）
鮮明な赤紫色です。花数が多く、切花長の長い、スリムな草姿が特長です。

**サマーシルキー**
（8月旧盆出荷向け）
白色品種で、花数が多く、生育と開花揃いが良好です。